

インドネシア・アチェ州立博物館及びアチェ州立公文書館職員 の修復保存技術研修受け入れについて

国立公文書館 有友 至

平成 18 年 2 月にアフガニスタン国立公文書館職員 2 名の修復研修に続き、インドネシア・アチェ州の博物館と公文書館の職員の修復研修を行った。

ご存知のとおり 2004 年 12 月 26 日に発生したスマトラ島地震津波災害は、インドネシア・アチェ州を中心に多数の犠牲者をもたらした。アチェ州立公文書館の所蔵する歴史文書は、ほぼ失われ、アチェ州立博物館の歴史文書は被害こそ免れたものの、劣悪な保存環境に置かれていることである。

貴重なアチェの歴史資料等の自立的な文書管理体制を実現するために、東京外国語大学が実施するプロジェクトにおける、修復技術の研修依頼を受け、当館で実施したアチェ州立博物館、公文書館職員 2 名の 1 か月間修復保存技術研修について報告する。

概 要

研修受け入れ期間 平成 18 年 7 月 18 日 (火) ~ 8 月 18 日 (金)

研修者 インドネシア・アチェ州立博物館 ユディ・アンディカ氏
インドネシア・アチェ州立公文書館 リニ・ロビニ女史

招聘元 東京外国語大学

「アチェ州立博物館及びアチェ州立公文書館職員に対する資料整理保存技術研修」事業

通 訊 東京外国語大学他

研修場所及び担当者

東京都写真美術館 山口 孝子

富士フィルム (株) 薄 豊昭

国立公文書館修復室 有友至、中島郁子他修復室職員

つくば分館職員

1. アチェ州立博物館、公文書館職員への研修

アチェ州立公文書館及び博物館も歴史資料を所蔵しているので、現状についての意見交換を行った。歴史資料を保存している博物館の保存状況については、書庫は 2 重壁になっており、空調は常時稼働しているとのことであった。壁の間に結露が出来ていないか心配であるとのことであったが、帰国後に、定期的に点検口より確認するこ

とにした。

歴史資料の状況について、彼らの話では今回の災害は、公的機関の所蔵資料にも被害をもたらしたが、それ以外に民間で所蔵されていた多くの貴重な歴史資料も失われたそうである。彼らの今回の研修は、帰国後にアチェ州の他の機関への基本的な保存方法や修復技術を伝授する指導者としての重要な役割を担っているとのことであった。

紙資料の修復について、水害資料のサンプルを持参されたので、資料の汚れ（泥、砂）などのクリーニングから、まず実施した。

修復技術の研修は、現地で賄える器材での実施可能なものということで、繕いは洋装本の破れにも応用でき、裏打ちは地図に用いることが可能であるので、裏打ちと繕いを中心に行なうこととした。作業中に糊の作り方、刷毛の使い方なども順次説明し、手本を見せ、細かいところは質問を受けながら十分習得できるまでの何度も繰り返して実施した。

その後、持参した劣化の激しい文書（1枚文書が細分化している状態にあった）の修復作業にかかり、劣化状況に応じた繕い・裏打ち等の細かいテクニックを指導した。約1か月の研修期間中、彼等は精力的に作業に取り組んだ。

8月7日には、つくば分館の書庫、フィルム書庫等の見学を行い、また折角の機会でもあるので、防災科学研究所（地震、水害）の施設見学等も実施した。

また、今回は、彼らの研修要望のなかに、写真の保存修復及びマイクロ撮影の技術も含まれていたので、8月15日に東京写真美術館の見学、富士フィルム（株）の講義を受けたほか、本館で実施しているマイクロフィルムの撮影現場の見学等も行なった。東京写真美術館の保存担当学芸員との質疑応答のなかで災害にあったかなりの量の所蔵写真は残念ながら修復は不可能であることが判明した。また資料のインク焼けなどに対する処置は、現状では難しいので、まず記録を残すという意味で、フィルム化をアドバイスした。

8月16日には、館長及び館職員との意見交換会を開いた。館長から技術援助等については、今後とも協力関係を継続したいという言葉があった。

2. 研修を終えて

アーカイブズ第25号でお伝えした未だ戦火の火が消えていないアフガニスタン国の現状と、地震津波災害により世界の注目を浴びて紛争も収まり世界各国からの支援のあるアチェ州とは比べることは出来ないけれども、かれらの国籍は違えども歴史資料を後世に残すそうとする意識は、我々が見習うべき大事なことである。